

補完学習活動「教育用語」学習指導案

1.対象：手話奉仕員養成講座修了者（10名）

2.指導の形態：通常教室（120分）

3.指導の目的：

- (1) 自身で調査し、手話で発表する力を身につける（言語的+論理的+博物的能力を高める）
- (2) ろう教育に関する用語を理解し、一般教育との違いを知る
- (3) 用語を理解した上で、日本手話で論理的に説明できるようにする

4.指導に当たって

- ・受動的から能動的への変換の最初のステップとして、各自が事前に用語などを調査し、数分で説明できるようにするとよい
- ・説明した後、質問時間を設けることで、理解を深めていくと良い
- ・日聴紙などの参考文献を紹介することで、専門図書などを紹介するとよい。

5.本時の展開

過程	学習活動	指導・支援内容	評価の観点
導入	ろう教育に使用される用語を把握する	・「ろう教育」に使用される用語、自由に発言させることで専門用語に意識を向ける。	積極的に発言できているか？
展開	用語の調査結果を発表する	①前回の終わりに宿題として、2～3人毎に1題を掲示しておく。 ②今回は、各自調べてきたことを発表し、発表方法は下記の通り。 ・発表3分、質疑2分 ・言語は日本手話とする ・スライドを使用してもよい ③選択された用語の動画を視聴（30分） ④インタビュー 受けてきた教育法が異なる2～3名のろう者ゲストを招き、受講生によるインタビューを行う。さらに質問時間を設け、理解を深める（20分）	主体的な学習意識をどのくらい高められたか？ 【観察】
まとめ	まとめ課題	ろう者の生活などの実態の背景に、ろう教育法が異なる影響が大きいことを示唆してまとめる。	学習を通して、ろう者の発達と教育法の間関係を把握できたか？

6.参考・引用文献

ろう者学教育コンテンツ開発プロジェクト, <http://www.deafstudies.jp>,ろう者学教育コンテンツ
Web サイト,コミュニティ「教育用語」
日本聴力障害者新聞、MIMI など

宿題：18用語のうち、指導者から示された用語を自分で調査し、日本手話を用いて3分間で説明できるようにせよ。なお、発表本番時はメモを見ながらは控えること。

(※事前に例を見せておく)